



第109回日本皮膚科学会総会 イブニングセミナー5

# 頭頸部の帯状疱疹に伴う 合併症の早期診断と治療 —皮膚科医の果たすべき役割は?—

2010年4月16日(金) 18:10~19:10

大阪国際会議場 第7会場 (1009会議室)

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51 TEL:06-4803-5555

## 座長

東京慈恵会医科大学附属青戸病院 皮膚科学 教授

**本田 まりこ** 先生

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 皮膚科学分野 教授

**岩月 啓氏** 先生

## 演者

### 講演1 「神経病理所見および耳鼻咽喉科領域の合併症」

久留米大学医学部 皮膚科学 准教授

**安元 慎一郎** 先生

### 講演2 「眼科領域および神経内科領域の合併症」

奈良県立医科大学 皮膚科学 教授

**浅田 秀夫** 先生



共催：第109回日本皮膚科学会総会／マルホ株式会社

# 頭頸部の帯状疱疹に伴う 合併症の早期診断と治療 —皮膚科医の果たすべき役割は?—

## 講演1

### 神経病理所見および 耳鼻咽喉科領域の合併症

久留米大学医学部 皮膚科学 准教授

**安元 慎一郎** 先生

## 講演2

### 眼科領域および 神経内科領域の合併症

奈良県立医科大学 皮膚科学 教授

**浅田 秀夫** 先生

“帯状疱疹治療における抗ヘルペスウイルス療法の有効性および安全性の向上”を目的として、2009年に「帯状疱疹に関する抗ヘルペスウイルス療法研究会(略称HZ研究会)」を立ち上げた。第1回「腎機能低下患者における抗ヘルペスウイルス療法の課題と対策」に引き続き、第2回は本年1月30日に「頭頸部の帯状疱疹に伴う合併症の早期診断と治療」をテーマに開催され、ヘルペスウイルス感染症を専門とする皮膚科、病理、耳鼻咽喉科、眼科、神経内科の医師を交えて議論を交わした。

講演1では、帯状疱疹における神経病理所見と耳鼻咽喉科領域の帯状疱疹に伴う合併症の診断と治療について、講演2では、眼科領域と神経内科領域の帯状疱疹に伴う合併症の診断と治療について、それぞれ第2回HZ研究会で議論された内容を紹介する。今回、帯状疱疹脳髄膜炎とアシクロビル脳症では発熱や頭痛の有無により早期鑑別が可能であるなど、頭頸部の帯状疱疹で皮膚科医が知っておきたい留意点と、果たすべき役割についてディスカッションを行いたい。

#### ■安元慎一郎先生 ご略歴

昭和57年 3月	鹿児島大学医学部 卒業
昭和57年 6月	九州大学医学部皮膚科 入局
昭和60年 7月	米国メリーランド大学医学部 留学
平成 1年 4月	九州大学医学部附属病院皮膚科 助手
平成 4年 4月	九州厚生年金病院皮膚科 部長
平成 8年12月	九州大学医学部皮膚科 助手
平成 9年 3月	九州大学医学部皮膚科 講師
平成11年 4月	久留米大学医学部皮膚科 講師
平成14年10月	久留米大学医学部皮膚科 助教授
平成19年 4月	久留米大学医学部皮膚科 准教授 現在に至る

#### ■浅田秀夫先生 ご略歴

昭和59年	奈良県立医科大学 卒業
昭和60年~平成1年	大阪大学大学院(ウイルス学)
平成 1年	箕面市立病院皮膚科 医員
平成 5年	大阪大学医学部皮膚科 助手
平成6~9年	米国NIH(Dermatology Branch) 留学
平成12年	大阪大学医学部皮膚科 講師
平成14年	奈良県立医科大学皮膚科 助教授
平成19年	奈良県立医科大学皮膚科 教授 現在に至る